

イバラヒゲナガアブラムシ

春から秋にバラの若枝や蕾などに群生する緑色のアブラムシ。最大長約3mm。成虫は頭部やその近くがやや赤い。バラの害虫としてよく知られている。多発すると枝の伸びや花の形が悪くなるといわれている。



1. 幼虫と成虫，体長最大3mm強。2000/6/30。
興部町，道路縁のバラ。白いのは幼虫の抜け殻。

【学名】 *Sitobion ibarae* 【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) ， アブラムシ科 (Aphididae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州：サハリン，朝鮮，台湾，中国，フィリピン，スマトラ，マレー。

【特徴】

腹部背面の1対の突起（角状管）は黒く長い。尾端の突起（尾片）は黄色。

【生態】

宿主：バラ属（バラ，ノイバラ）。

寒冷地では卵越冬らしい。春から秋までバラを吸汁加害する。

天敵としてテントウムシ類，クサカゲロウ類，ヒラタアブ類がいる。

【被害と防除】

本州などでは古くからバラの害虫としてよく知られている。道内でも庭や公園のバラで普通に見かけるが，被害実態はよくわかっていない。

農薬による駆除が必要と判断される場合はバラのアブラムシ類用の農薬を虫に散布する。散布にあたっては取扱説明書に従って使用し，通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

【文献】

1977. 奥野孝夫，田中寛，木村裕. 原色樹木病害虫図鑑. 保育社，大阪. (形態，生態，防除.)

1983. 森津孫四郎. 日本原色アブラムシ図鑑. 全国農村教育協会, 東京. (分類, 形態, 生態.)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

イバラヒゲナガアブラムシ abura/ibara/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/2/8.

musi.JPG

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2000.